

消化器・肝臓センター NEW—す

NO. 69

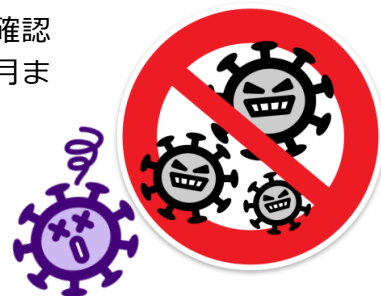
2021.3

新型コロナウイルス感染症が胃がん手術に及ぼす影響



新型コロナウイルス感染症が、国内で初めて確認されてから、1年以上が経過しました。2021年2月までに国内で40万人以上の方が感染されています。

新型コロナウイルス感染症は、それ自体の治療に関わるだけでなく、様々な疾患に大きな影響を及ぼしています。



胃がん手術件数の減少

先日、当院も含めた大阪大学医学部消化器外科の関連42施設の胃がん手術件数（原発性胃癌の切除件数）の推移が報道されました。2019年（1-12月）と2020年（1-12月）を比較したところ、前年比15.2%、約300件ほど減少していることがわかりました。単施設の場合、元々増減があるので参考にはなりません。当院では前年比12%程度の減少がみられました。

感染を恐れた受診控え

この胃がん手術件数の減少は、単純に胃がん患者の方が減少したとは考えにくく、やはり新型コロナウイルス感染症の拡大による、がん検診自体の中断・縮小や感染を恐れ検診や医療機関の受診を控える動きがあったためと考えられます。

実際に、日本対がん協会の発表では、検診の受診者数が、2019年（1-7月）と2020年（1-7月）の比較で55%の減少を認めたそうです。秋以降回復傾向にあるそうですが、2020年度は20-30%減少する見込みとなっております。当院の人間ドックの受診者数は、2019年（1-12月）と2020年（1-12月）の比較で、約19%減少しておりました。

より進行した状態で発見されないために

今後は、こうした受診控えの影響で、より進行した状態でがんが発見されることが危惧されています。

過度な受診控えは、かえって健康上のリスクを高めてしまうかもしれません。医療機関も感染対策に十分留意していますので、適切に検診を受診し、症状があるなど必要な時は、医療機関を受診するようにしてください。

外科 高山 治



市立貝塚病院
TEL: 072-422-5865

KAZUKA